

平成 23 年度 北陸技術士懇談会・(公社) 日本技術士会北陸本部合同技術講演会報告

1. はじめに

平成 24 年 2 月 4 日 (土)、平成 23 年度北陸技術士懇談会・日本技術士会北陸本部合同技術講演会が開催されました。日本技術士会では、地域組織の改革が進められており、平成 23 年 11 月 26 日に北陸技術士懇談会及び日本技術士会北陸支部の合同会議が開催され、今後の方向性について話し合われました。今後も議論を続けていくことになっています。このような背景のもと、今回の技術研修会は北陸技術士懇談会・日本技術士会北陸本部共催として実施されることになりました。テーマは、昨年 3 月の東日本大震災を受けて、「災害・防災」として企画されました。

2. 挨拶

今回の研修会は共催ということで、屋敷会長(北陸技術士懇談会)、大谷本部長(日本技術士会北陸本部)のお二方より挨拶がありました。

屋敷会長の挨拶では、今回初めての合同研修会の開催で、通常 80 名のところ 100 人を超える参加者があり、「うれしい想定外」ということでした。技術士はさまざまな分野があるので、防災に関して、多分野の技術を融合させ地域社会に貢献させたいとのことでした。そんな中で、この合同研修会は非常に有意義であると述べられました。



次に大谷本部長からは、日本技術士会の会則が変わり、今までの本部が統括本部に、支部が本部に、そして“公益社団法人の冠をつけた県単位の支部設立ができるようになったこと”が報告されました。さらに防災をテーマとした今回の企画の主旨説明をされました。最後に日本技術士会へ

の入会のお願いで挨拶を締めくくられました。



講演の最後には橋本副会長より、講師へのお礼と感謝の意が述べられ、今後もそれぞれの立場において当研修会で得たことを仕事に活かしてほしいとのことでした。

3. 技術研修会プログラム

第 I 部 基調講演

『災害大国 NIPPON からの発信』: 吉川謙造氏
(日本技術士会東北本部長, 前東北工業大学教授,
技術士部門: 応用理学・建設・総監)

第 II 部 北陸本部防災委員会講演

『1. 北陸の自然特性と災害 一豪雨・地震災害を中心として』: 平野吉彦氏 (北陸本部防災委員長,
㈱キタック, 技術士部門: 応用理学, 総監)

『2. 洪水からくらしを守る 一“剛”と“柔”の
合わせ技でー』: 今度充之氏 (北陸本部防災委員,
東京コンサルツ㈱, 技術士部門: 建設(道路/トンネル/建設環境), 総監)

『3. 北陸の地震防災』: 一願稔氏

(北陸本部防災委員, ㈱国土開発センター, 技術士
部門: 建設(道路), 総監)

なお、大雪による列車遅れの影響により、I 部と II 部を入れ替えて行われました。

4. 基調講演

『災害大国 NIPPON からの発信』: 吉川謙造氏

前段では、3 月 11 日の東日本大震災 (M9.0) の地震の伝わり方を示すシミュレーション、仙台空港での津波の様子を示した動画や被災状況の記録写真を示されました。また、被災地でのリーダー像 (情報を持っている人=リーダー)、窃盗団に遭遇したエピソードなどの体験談を話されました。

本題に入り、防災対策は今までの「専守防衛型」

から「先制攻撃型」にしていくべきと述べられました。その具体策として大深度ボーリングによって、日本近海のプレートエネルギーを岩盤中のヒズミとして検出し、このヒズミが地震や津波として放出される前に取り出そうという壮大な構想を述べられました。さらに原子力に変わる国産エネルギーとして、雨水資源の活用、風力発電、太陽光発電、についても説明されました。



次に、リスクコミュニケーションについて述べられました。リスクコミュニケーションには「定義の2領域（社会的論争、個人的選択）と4つの義務（実用的義務、道義的義務、心理的義務、制度的義務）があります。その内、道義的義務が欠如しがちであるということ、4つの義務がそろってはじめてコミュニケーションが成り立ち、技術士は、それを理解したリスクコミュニケーターであってほしいと述べられました。

最後にプレートテクトニクスと原子力政策についての見解で、講演を締めくくられました。

5. 北陸本部防災委員会講演

『1. 北陸の自然特性と災害 一豪雨・地震災害を中心として』：平野 吉彦氏

最初に防災委員会の概要を説明されました。当委員会は、新潟、福井、石川、富山の4県からの委員選出の8名で構成されているということで、本日の発表は中間報告ということでした。

次に北陸地方の自然・社会特性、防災の歴史、防災・減災の課題について報告されました。

まとめとして、豪雨災害は、ソフト対策と住民の災害意識の向上が課題、豪雪災害は、高齢者への援助体制が課題、地震災害は、震度6以上の直下型地震はいつきてもおかしくないという意識で

の備えが必要ということで、BCP（事業継続計画）の重要性を強調されました。



『2. 洪水からくらしを守る 一”剛”と”柔”の合わせ技で』：今度 充之氏

今度氏は、手取川の過去の洪水被害、河川改修の歴史・効果、洪水対策について報告されました。さらにインターネットによる河川情報提供、洪水ハザードマップの整備状況の報告。最後に課題として、高齢化社会を踏まえて、防災活動への若者の参加、一生に一度ないからという安心感の払拭が必要（「超過確率」の落とし穴）ということを強調されました。

最後に「ハードとソフトがかみ合うことが大切」と報告を締めくくられました。

『3. 北陸の地震防災』：一願 稔氏

一願氏は、北陸4県の地域防災計画の震災対策編の内、過去の地震、活断層とその評価、想定地震、被害想定について報告されました。地域防災計画は消防庁のホームページに掲載されているということでした。

以上、防災委員会途中経過報告でした。今後、6月の日本技術士会北陸本部のホームページでの公開に向けてまとめていくということです。

6. おわりに（交流会）

研修会の後に講師を招いての交流会が開催されました。合同開催ということで、普段とはまた違う顔ぶれということもあり、賑やかな交流会となりました。 事業委員 池田 保裕(福井)